

午のように飛躍する年に

達生堂グループは1月5日、みんなが元気に顔を合わせて通常業務がスタートしました。

昨年12月26日に恒例のもちつき大会が行われました。多田正毅会長も杵を持って若手職員を指導し、職員が交代で杵をふるってもちをつき、女性職員たちがお供えもちやあんこもち、きなこもちなどにしました。院内託児所の子供たちも集まり、もちつきを興味深そうに眺めていました。

12月27日は年末あいさつでが行われ、2025年を締めくくりました。

新春の年初あいさつでは、白石裕比湖理事長や藤田善幸病院長らが次々に新年のあいさつを行いました。「2025年問題はさまざまな問題があり、医療従事者の不足や偏在が積み残されている。今年は診療報酬の改定があり、高市首相も医療に厚みを加えろとし、それが追い風になってほしい」「午年は飛躍の年といわれ、病院も飛躍していきたい」とあいさつ。

最後に恒例の標語「感謝の心が高まれば高まるほど
それに正比例して幸福感が高まっていく　そして前
向きな心は成長の第一歩です」が発表されました。

2026年1月5日

感謝の心が
高まれば高まるほど
それに正比例して
幸福感が高まっていく
そして前向きな心は
成長の第一歩です

